

# 平成23年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ソウハチ

学名 *Hippoglossoides pinetorum*

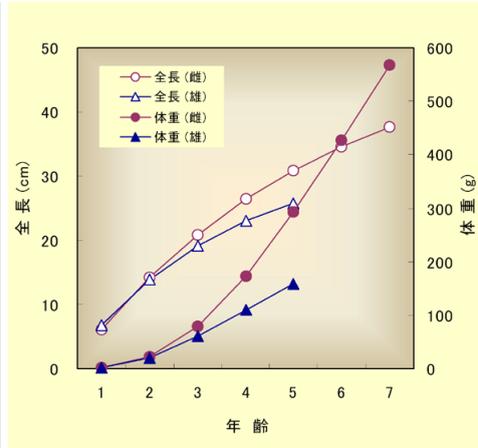
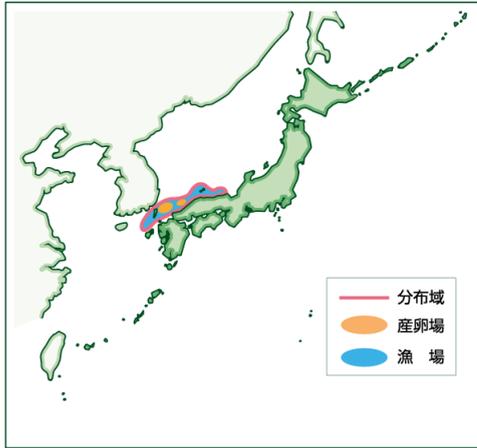
系群名 日本海系群

担当水研 日本海区水産研究所



## 生物学的特性

寿命: 7歳以上  
 成熟開始年齢: 雄2歳、雌3歳  
 産卵期・産卵場: 冬～春季(1～3月)、対馬周辺海域および島根県浜田沖  
 索餌期・索餌場: 日本海西部  
 エビジャコ類やアミ・オキアミ類を主に捕食、全長15cm以上ではキュウリエソなどの魚類、20cm以上ではホタルイカ等のイカ類が胃内容物中に占める割合が高い  
 食性:  
 捕食者: エビジャコ類(幼稚魚期)

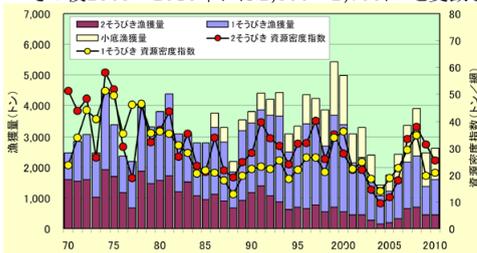


## 漁業の特徴

日本海西部海域において、ほとんどが1そうびき及び2そうびき沖合底びき網(沖底)と小型底びき網(小底)によって漁獲される。1988年以前は沖底の漁獲量が底びき網による漁獲の80～90%を占め、残りが小底によるものであったが、1988年以降は沖底の漁船数が盛期の50～70%に減少したこともあり、小底による漁獲割合が増えつつある。

## 漁獲の動向

本種の漁獲量は増減を繰り返しながら推移し、統計が整備された1986年以降では1999年には5,000トンを超えるピークが認められる。その後急減して2004年には最低の約1,500トンまで減少したが、2008年には約4,000トンに増加、その後2009～2010年には2,500～2,700トンと変動を繰り返している。

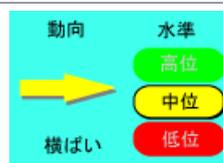


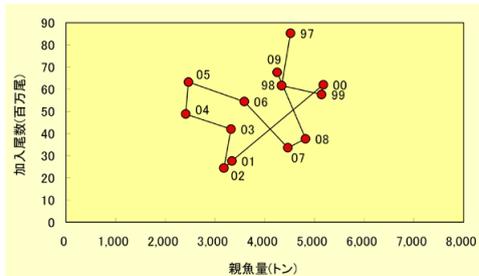
## 資源評価法

沖底の漁獲成績報告書に基づく資源密度指数及び年齢別漁獲尾数に基づくコホート解析により評価を行った。なお、本種は0歳魚がほとんど漁獲されないため、コホート計算による資源量は0歳魚を含まない漁獲対象資源である。また、資源密度指数は10分マス目で設定された漁区ごとの月別CPUE(漁獲重量(kg)/ひき網回数)の年計を有漁区数で除したものである。

## 資源状態

1そうびき沖底、2そうびき沖底の資源密度指数は、ともに年変動が大きいものの1970年代の最高値と1980年代の減少が認められる。近年では2004年の最低値から2008年まで増加して再度減少と増減を繰り返すが、長期的な推移から2010年の資源水準は中位と判断した。最近5年間の資源密度指数とコホート解析による推定資源量の推移から資源動向は横ばいと判断した。再生産成功率は2007～2008年に最低水準まで低下したが、2009年には1997年以降の平均よりもやや高い水準まで回復した。親魚量は平均的な水準にあると推定される。



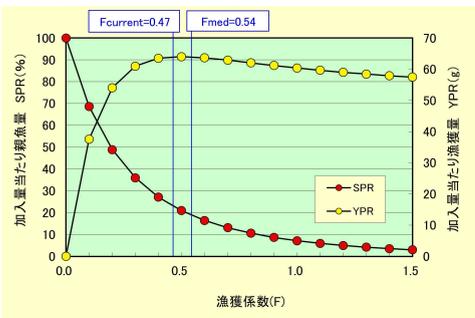


### 管理方策

資源水準は中位、親魚量は過去の平均的な水準にあり、再生産成功率は平均的な値よりやや高い水準に回復したと推定される。近年の再生産成功率が継続した場合に資源の維持が期待できる漁獲量を、ABClimitとした。

	2012年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	3,600トン	Fmed	0.54	35%
ABCtarget	3,100トン	0.8Fmed	0.43	30%

- F値は各年齢のFの単純平均
- 漁獲割合はABC/資源量



### 資源評価のまとめ

- 資源水準は中位、動向は横ばいである
- 親魚量は平均的な水準にあり、再生産成功率は平均的よりやや高い水準に回復した

### 管理方策のまとめ

- 近年の再生産成功率が継続した場合に資源が維持できる漁獲圧にとどめる
- 1、2歳魚の漁獲割合が高いため、若齢魚に対する漁獲を抑え親魚量の維持を図ることが重要である

執筆者: 木下貴裕・藤原邦浩

資源評価は毎年更新されます。